

令和6年度 環境学習アドバイザーを活用した環境教育の取組例

◇環境学習アドバイザー：藤五 和久 氏・後藤 岳志 氏

◇学校名：和歌山県立海南高等学校

◇学年：1年

◇教科：理科

◇テーマ：海岸生物の多様性

◇学習のねらい

- ・ 生きている海洋生物に直接触れて、海岸生物の多様性について理解を深める。
- ・ 地域の豊かな自然を体感し、環境に対する意識を高める。

◇学習の流れ

★：アドバイザー派遣を活用した授業

校時	学習の主な活動	指導のポイント
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習の目的や磯観察での注意点を確認する。 ・ 岩礁海岸で見られる動植物の生態、種の同定の方法について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習場所が日本におけるナショナルトラスト運動の先駆けとなった場所であることに触れる。 ・ 潮間帯では固着生物において潮位に対応した帯状分布が見られることを意識させる。 ・ 参考資料として図鑑を一人一冊貸出し、何を観察したいのか事前に考えさせる。
2～7 ★	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天神崎で生物観察を行う。 ・ 天神崎の海岸の特徴について学ぶ。 ・ 班ごとに海岸で生物採集を行う。 ・ 観察された海岸生物の生態について理解を深める。 <p>(※6校時分を1日で実施)</p>	<p>環境学習アドバイザーに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天神崎のナショナルトラスト運動についてやタイムプールの生物を観察・採集する時のポイントについて説明をいただく。 ・ 磯観察では、生物の同定において助言をいただく。 ・ 採集した生物をグループ分けした後、それぞれの生物の生態について講義をいただく。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察結果を A4 用紙 6～10 枚程度のレポートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察した動植物それぞれについて 5 種のスケッチと詳細な説明、10 種以上の種名と簡単な説明をまとめさせる。 ・ スケッチを課すことで生物を細部まで詳細に観察することを促す。

◇実施時期：4月

◇成果

- ・ 実習のレポートより、各生徒が多く生物を観察できていたことがわかった。
- ・ 例年生物の同定において指導の難しさを感じていたが、アドバイザーの方々の助言により多くの生徒が質問をしながら取り組むことができていた。

◇参考

阿部 正之（2008）海辺の生物観察図鑑。 誠文堂新光社。

◇実施の様子（写真）

